



2016-17年度
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム

Weekly Report Niigata



2016-17 年度
国際ロータリーのテーマ



2016～17 年度
新潟ロータリークラブ会長
宇尾野 隆

新潟 RC9 月第 2 例会 (2016.9.13) No.3150

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 宇尾野 隆会長挨拶

ロータリーの創設者 ポール・ハリス

本日は、新保清久ガバナーエレクトと丹治芳子次年度地区幹事に、お越しいただいています。後程、ご紹介させていただきたいと思います。一昨日の日曜日に、本間彊社会奉仕大委員長、小林社会奉仕委員長はじめ、当クラブのメンバー12名と3家族8名の計20名で恒例であります交通遺児を励ます事業ということで、白根の中村観光果樹園で、「葡萄・梨狩りとバーベキューの集い」を行なつてまいりました。爽やかな汗をかきながら葡萄を摘み、梨狩りを楽しみながらいい交流ができたと思います。参加された皆様、大変お疲れ様でした。後日また、詳しくご報告をさせていただきます。さて、本年度の私のテーマの1つは、「ロータリーの原点を、見つめ直す」でありますので、今日は、その第1回目として、ロータリーの創設者ポール・ハリスさんについて、お話をさせていただきたいと思います。私より、よくご存知の方も当クラブにはいらっしゃると思いますが、私の話の中で至らぬところがありましたら、周りの方に補足をお願いします。ポール・ハリスは、1868年4月19日に米国ウイコンシン州ラシーンで生まれました。父ジョージと母コーネリアはこの町で小さなドラッグストアを経営しておりましたが、経営はあまりうまくいっておらず、1871年の7月、3歳の時にバーモント州ウオーリングフォードにある実家の祖父母のもとに預けられることになりました。ウオーリングフォードは、ボストンから車で4～5時間のところにある山あり谷あり農場ありの緑に囲まれた自然豊かな街であったそうです。ここで、ポール・ハリスは優しい祖父母のもとで規則正しく、楽しく生活をしたそうですが、同時に祖父からは、勤勉に働き、誠実に生きよと教えられて育ったということでもあります。その後、ポール・ハリスは、聡明な頭脳の持ち主で、そこに祖父の教育熱意が加わって成績は極めて優秀でありましたが、向こう見ずで喧嘩早く、更に学校嫌いという重大な欠陥がありました。これが突飛な行動となって現れて、その後彼の人生を幾度か狂わせることとなります。ウオーリングフォード中学、ラトランド高校を経て、ラッドロウにあるブラックリバー・アカデミーに入学しますが、悪ふざけが昂じて一年で放校処分を受けます。その後、バーモント陸軍士官学校を抜群の成績で卒業し、バーモント

大学に入学しましたが、1886年の12月に地下組織の活動の嫌疑をかけられ退学になります。その後、祖父が雇ってくれた家庭教師の下で勉強して、翌年1887年秋にプリンストン大学に入学しました。ところが、翌1888年3月に祖父がなくなり、大学へ通うことを断念せざるおえませんでした。その後、アイオワ州のセントジョン・スティーブソン・ウィスナンド法律事務所で1年間、見習いをした後、今度はアイオワ大学に入学し、1891年6月に法律学士を得て卒業し、天職である弁護士の道歩みはじめるところでありましたが、またここで問題が起こります。卒業式で10年前にこの大学を卒業したある弁護士の講演を聞き、弁護士の仕事をやる前に違う事をやる決断をします。その弁護士は講演の中で、「卒業して、先づ、どこかの小さな町に行つて、そこで5年位は、馬鹿になってみる。その上で自分の好きな都会に出て、そこでほんとうの仕事を始めるという考えは意外に賢明な考え方ではないだろうか」という話をしました。その話を聞いて、ポール・ハリスは小さな町と言わず、世界中いけるところはどこへでも行つて馬鹿になってやろうと決め、あてどもない放浪の旅に出たそうであります。どうやら、ハリスには放浪癖があったようです。後に「旅行と労働は大人になる良い経験となった」と語っています。1896年、以前より憧れていたシカゴにやつて来たポール・ハリスは、ビジネス街中心部に法律事務所を構え、その後40年以上にわたり、弁護士として活躍することとなります。そして、1905年にロータリークラブを創立するわけですが、なぜポール・ハリスはロータリークラブを設立したのでしょうか？それは、弁護士になり故郷を遠く離れたシカゴで弁護士事務所を開業しましたが、親類や友人と離れ、結婚もしておらず非常に淋しい思いをしたからです。彼の表現を借りるとすれば、「絶望的に淋しかった」ということです。彼は、ある日シカゴの弁護士仲間であるボブ・フランクを訪ねます。友人は、町で会う人ごとにファーストネームで呼び合っていました。米国では、友人の間では、フォーストネーム又はニックネームで呼び合うのが習慣です。彼はそれを見てショックを受けます。皆が友人であり親しい仲間であった故郷ウオーリングフォードを思い出します。そして、友愛の精神を分かち合い広める方法としてロータリークラブを作ろうと考えました。広い都会砂漠のシカゴで、田舎から出てきて淋しい思いをしている者が大勢いるに違いない。そういう人達でクラブを作ったら素晴らしい何かが生まれると考えたわけです。ハリスは、仕事を通じて知り合った数人の仲間を集め、地元職業人から成るクラブを結成するという構想を打ち明けます。

そして、1905年2月23日ポール・ハリス、ガスターバス・ローア、シルベスター・シール、ハイラム・ショーレーの4人がシカゴの中心街にあるローアの事務所に集まりました。これが、ロータリークラブの最初の例会であります。ハリスは、1907年2月、シカゴ・ロータリークラブの3代目会長に選出されました。そして執行委員会を設立し、昼食時間中に委員会の会合を開き、会員であればだれでも参加できるようにしました。ロータリークラブの昼食例会の伝統は、ここから始まったといわれています。ハリスは、ロータリーをシカゴ以外にも広げようと粘り強く活動し、1910年、米国のいくつかの主要都市にもロータリークラブを結成することに成功しました。同じ年の8月、シカゴで第1回の全国大会が開催され、16のクラブが全米ロータリークラブ連合会を結成し、ハリスが初代会長に選ばれました。会長を2期務めたあと、健康上の理由と弁護士業の多忙を理由に会長職を退きましたが、その後大会の決定により生涯名誉会長となります。1920年代半ばから、ハリスは再び、国際大会に参加したり、世界中のクラブを訪問するなどロータリーに活発に関わるようになり、1935年には、日本にも訪問しています。ポール・ハリスについては、まだまだ色々な逸話がありますが、また機会をみてお話をさせていただきます。今日は、ロータリーの創設者、ポール・ハリスをご紹介させていただきました。

(3) ビジターの紹介・ご挨拶

- ・新保清久ガバナーエレクトと丹治芳子地区幹事
- ・新保ガバナーエレクト、丹治幹事ご挨拶

(4) 委員会報告

- ・吉田地区ライラ委員長より10月22・23日開催のライラ参加、協力のお願いがあった。

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(新田 幸壽委員)

徳永 昭輝君 徳山 啓聖君

新田 幸壽君

青少年育成基金寄付発表(五十嵐幸雄委員)

白勢 仁士君 本間 彊君

樋熊 紀雄君

(6) ニコニコボックス紹介

- ・新保清久ガバナーエレクト、丹治芳子地区幹事
9月より新保ガバナーエレクト事務所も開設されました。今後いろいろとお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。
- ・宇尾野 隆君 ガバナーエレクト新保清久さん、地区幹事丹治芳子さんをお迎えして。
- ・松本 英明君 誕生日のワインありがとうございます。
- ・森安 千博君 結婚記念日のお花が届きました。娘から「パパどうかしたの?」って心配されましたが、妻は喜んで

いました。ありがとうございました。

・徳永 昭輝君 9月9日、平成28年度産科医療功労者として厚生労働大臣表彰を受けてきました。大学に、新生児集中治療室(NICU)の基礎を作り、その後20余年新潟市民病院で産科、周産期医療に関わり、現在長潟で一開業医としてお産を扱っていますが、もっと頑張りたいと考えているのでしょうか?さらに精進を重ねてまいりたいと考えています。先日の日曜日も「葡萄・梨摘みとバーベキューの集い」に参加予定でしたが参加できず市民病院で取り上げた妊婦さんのお産に立ち会い、4060gの巨大児が鉗子分娩で生まれました。親子2代にわたるお産に関わるような年齢になりました。この年でいまだ現役で働く厳しさをいまも味わっています。うれしいような、悲しいような・・・思いです。

(7) 幹事報告(内田 直紀幹事)

・11月の地区大会プログラム広告協賛のお願いが届いております。1ページ10万円、1/2ページ5万円、1/3ページ3万円、広告掲載ご希望の方は事務局へご連絡願います。

(8) 会員スピーチ「新潟の電気の歩みと白洲次郎」

東北電力株式会社新潟支店支店長 武田 眞二君

(9) 9月13日例会の出席率 63.27%

会員数98名(出席免除会員8名)

出席者62名(出席免除会員7名を含む)

(2週間前メーク後 89.25%)

9月27日の例会予定 卓話「北東アジアの経済と現状」
公益財団法人環日本海経済研究所
調査研究部長 新井 洋史氏

* ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ * ~ *

交通遺児のための事業

葡萄・梨刈りとバーベキューの集い 報告

小林 建社会奉仕委員長

9/11(日)に交通遺児の家族を招いて事業を行いました。3家族8名(保護者3名、子供5名)に当クラブ会員を合わせ20名にて、白根の中川観光果樹園に行つて参りました。中川社長より説明頂いた後、梨3個、葡萄2房をそれぞれ収穫しました。梨は色づいた大きい物、葡萄はなるべく黒い物が良いと選ぶポイントも教えてもらいました。中川観光果樹園さんは暴風ネットを備え、風では実が落ちないのが自慢だとのことでした。その後葡萄棚の下でのバーベキューで初秋の昼下がりを堪能しました。幹事が(私が)すっかり楽しんでしまい恒例のビンゴを忘れ、食べ終わってから慌てて行いました。今回からコンビニでも使えるクオカードを景品としました。8名分のビンゴでしたが意外と時間が掛かり、その分子供たちも楽しんだかと思います。意外に子供との付き合いが上手い会員がいたり、保護者を気遣う優しさに触れたり、会員の普段は見れない素の表情が見られた1日でもありました。